



国土交通省道路局長様

19.5.7
北広島町長



道路整備について

- (1) 本町は平成17年2月の合併により、町面積が645平方キロメートルと中国、九州地方で町としては最も面積の広い町である。
合併により旧町域間のモビリティが高まる中で、これを結ぶ幹線的道路の整備が急がれるし、重要である。
今後地方分権をさらに進め、基礎的自治体としての町の役割、機能を高めていくためにも、重要な生活基盤である幹線的道路の改良・整備を進める必要がある。
- (2) 準幹線的路線、フィダー的路線については、改良整備が理想であるが、待避所、危険カーブの解消等、部分的な整備を行うことによって、効率的、効果的な改良を行う。(これにより住民ニーズに早期に対応できるし、満足感もある程度満たすことができると思われる。)
- (3) 過度に人口、産業等が集中し、渋滞等の問題現象に陥っている極大都市について際限なく道路整備を行うのは、人間に例えれば肥大化している体を維持するためにさらに食べなければならないといっているに等しい。ダイエットこそが歩むべき健全な道である。
今後の国土形成のグランドデザインを考えると、極大都市と地方の格差がさらに増大していくのは看過できないさまざまな問題が生じるのではないか。
今後の道路整備に当たっては、極大都市に経済、産業が過度に集中させない視点と地方に対して活力を分散させていく視点が必要である。